



ペレット・ストーブに 補助金を

答 関係機関と協議する

問 片岡政徳

21年度に終了するバイオマスエネルギー地域システム化実験事業の経過と現状、終了後の窓口はどうなるか。

ペレットの素材、原木の搬入で特に一般からの搬入状況は。

答 産業建設課長補佐

19年12月の中間評価は良く事業を継続している。

エネルギー転換処理のチップ化の工程で、水分量、粒度など品質を保った状態でコストを下げる事が課題だ。

22年3月20日に実験事業は終了となる。製造ペレット、電気などを販売し経営の自立を検討している。

仁淀川流域関係市町

村、各関係機関と勉強会を行い、連携と協力を図る。

原木の搬入は、地域通貨の効果もあり個人林家から順調にある。終了後の管理は協議中。

問 片岡

施設視察と町内宿泊施設などの利用状況は。

答 産業建設課長補佐

視察は19年7月より1年4カ月で、46件177人。資料代は一人千円である。宿泊は3件で21人、昼食は3件で22人。

推進委員会は9回開催し、関係者の宿泊、食事などで一定波及効果はあったと思う。

問 片岡

原木の集材所を各地域に設けてはどうか。ペレ

答 産業建設課長補佐

ットストーブ、ボイラーに補助金の考えは。

集材所は今後の課題としている。

補助金は県など関係機関と協議し対応する。ストーブは1台約40万円、本庁に試験的に置いている。



ペレットストーブ。本庁に試験的に設置しているが評判は良い(本庁 住民課)

保健福祉課は手狭

答

答 町長

と、仁淀、池川支所の空室を利用し、住民サービスに努めては。

仁淀、池川支所の議場が物置状態となっている。できれば倉庫ではなくほかに活用してはどうか。

今後の選択肢として考えては。

答 総務課長

各支所とも可能な限り部屋を利用している。管理が十分でない点もあると思うが、有効に活用し管理していく。

両支所とも耐震診断を受けていない。どこが安全か判断できないが、診断を受け、今後の在り方を考える。

問 片岡

今の保健福祉課は狭く機能的でない。

町内公共施設の利用

本庁は耐震補強すれば大変使い勝手の悪い建物となる。耐震工事と併せて大幅な改造を行うか、新庁舎の建築か、今後議会の意見などを聞く。



長坂山「森の工場」 作業がずさん

答 厳しく指導をしたが

森の工場は森林所有の細分化や木材価格の低迷などに伴う投資意欲の減退、林業労働者の高齢化など、林業を取り巻く諸条件が厳しさを増し、森林の団地化を図り、作業道の開設、高性能林業機械等導入を行い、効率的かつ持続可能な森林施業を実施するものだ。

長坂山は作業員の経験が少なく作業工程に問題があり現地で指導してきたが、すでに残存木への損傷が見られ、間伐作業に対する配慮が欠けていたので、厳しく注意した。今後も指導を徹底したい。

答

副町長

問

岡田良成

町有財産長坂山「森の工場」の説明を。20年度、森の工場事業は趣旨に依拠しているか、検査をしたか。

問

岡田

残存木は、修復するのは難しいと思う。町民の財産である、執行部として監督責任を持ち、指導するよう強く要望する。

間伐材積は地権者（仁淀川町）に還元されたか。

答

副町長

町長と調査をしたが、作業道周辺がかなり損傷が激しく、材としては将来心配される。一定還元はできると聞いている。



町有財産長坂山「森の工場」。ズサンな作業で残存木に多大の損傷を与えた（長坂）



8月の町長選に出馬表明した大石副町長

問

農本規仁

副町長は、9月議会で町長選への出馬は、家族とも相談し判断すると言ったが、決断したか。

答

副町長

3年間の町行政、県庁での経験を基に、町民が安全・安心して暮らせる、自然と共生した魅力と活力のある町を目指し、町長選に向け全力を傾けていく。

答
した

出馬は決断したか

消防が統合されると聞くが

答 県1消防本部を検討中

問

農本

南海・東南海地震などの災害時、町民が頼りになるのは、整備されつつある自主防災組織であり、装備、組織力の点で消防団である。

その消防団と緊密な連携をとっている高吾北消防本部が三年後に統合されると聞くが。

答

副町長

県内15消防本部のうち14は、人口十萬以下で、財政基盤が弱く、車両の更新、専任職員の配置も困難で、同時災害への対応や業務の専門化、高度化が図りにくく、高知県消防広域化推進計画が策定され、24年までの広域化を目標に検討されている。

現在のサービスを低下させることなく、人口減少に対応した体制の確保を強く求めている。

答

町長

全消防本部の内容分析

問

農本

では、財政基盤に格差があり、給料の格差も大きい。広域的な災害では、県下一指令が良いが、本町は異常気象時に陸の孤島になりやすく、まず道路整備も必要だ。

答

総務課長

消防に限らずすべて隅々まで行き届いた行政を行っていく。

地域密着の消防署と消防団がなければ住民は安心できない。消防署から遠い人の意見の反映を。



県一消防本部が検討されている。高吾北消防署仁淀川分署（大崎）

住宅営町 家賃の上限見直しを

答弾力性をもたせ運用

問

農 本

来年度、町営住宅の入居収入基準額が引き下げられると聞く。

下限が下がることは、低収入の人も入居し易くなり良いと思うが、上限の引き下げは、共働きの世帯では収入超過で、入居できなくなる。

上乗せ条例で上限の撤廃と家賃の上限見直しは考えないか。

また、収入超過者に対し町は他の住宅の斡旋も義務付けられているが。

答

町民課長

公営住宅法の一部が改正され、3人世帯で収入400万円、政令月収15万8000円に引き下げられる。

撤廃、見直しは法で定められておりできない。

超過者に対しては、町営住宅をみなし特定公共賃貸住宅に変更するなど入居の推進を図っていく。斡旋は、入居者から申し出がなくなっていない。

問

農 本

机の上だけで家賃を決めるのでなく抜本的な定住政策として考えないか。

答

町民課長

政令月収の上限撤廃、家賃軽減の可能性があれば、検討していく。

問

農 本

超過者は、他町へ土地・家の購入を考えたと聞く。町有地の分譲、空き家の斡旋、借地と町有地との交換は考えてないか。

一人でも町に住んでも

答

町 長

らうため職員に努力してもらえないか。

職員には地域住民の目線に立った行政の実践を願うが、川下へと流れてしまう。町の将来を考えて行動して欲しい。

答

町民課長

町有地の払い下げも行っていかねばと考える。空き家は、持ち主の意向を調査し、インターネットも活用し広報を行っていく。



低家賃、グレードアップした住宅で若者定住に成功した村もある。(ハイツ清流・土居)



産業の活性化に 専属の職員を

答 考えていく

問

西森常晴

産業活性化の具体策は。

答

副町長

九割を占める林業の発展は大事。並行して、少量多品目の農産物を産直販売していきたい。茶も、荒茶でなく製品化して販売したい。

問

西 森

「村ごと有機」で成功した島根県旧柿木村、大豊町「碁石茶」は専属の職員を配置している。

「碁石茶」は10a当たり150万円の収入を上げ品不足が懸念されている。本町も職員を積極的に関与さすべきではないか。

答

副町長

考えていく。

問

西 森

庁舎、学校の耐震診断では、危険度が高いと報告があり、大崎診療所も予測される。

一日も早く、中学校の統合を図り、吾川中学周辺に、医療・福祉の拠点施設を建設しては。

答

副町長

広く意見を聞き慎重に対応していきたい。

問

西 森

高知市は、県外の元中学校教師原田隆史を講師に呼び、一年間に60人、五年間で計300人の教師に「やる気」を起こす研修費に5500万円を予算化するそうだ。

答

副町長

現場の教師が一番大事だ。教育長と相談し対応したい。



耐震診断で、危険度の高さが予測される大崎診療所の改築とデイサービスの増築も含め医療、福祉の総合施設の整備を提案しているが。(大崎)

道 中・津江間をつなげ

答 意見を聞いて

問

西 森

吾川地域は袋道が多い。中と津江間に林道を。

答

副町長

地域と地権者の意見を聞き対応したい。



中・津江間がつながれば、県道中津公園線が通行不能の時の迂回路にも利用できるが。(津江)

住 宅

平地の固定観念は捨てよ

答 一考に値する

問

西 森

町内に家を建てたいが、用地の世話はできるか。

答

副町長

平地が少なく、可住地は限られてくる。特に町中心部で用地の確保は難しい。

問

西 森

平地と、町中心地の固定観念は捨てたらよい。

答

副町長

先般、自然の傾斜を利用した住宅が建築の賞を受賞している。
(株)相愛は、高知市の北山に自然を生かした社屋を建て良い評判を聞く。

中学駅伝 走りはスポーツの基本

答 部活と学力は連動

問

西 森

高新中学駅伝の地区予選(高吾)の結果は。

答

教育長

男子は仁淀が14位、池川16位、吾川17位。女子は部活の事情で3校とも不参加。

答

教育長

スポーツの成績が上がれば学力も上がると理解している。
中学のクラブの現状は総数127人で10クラブあり、駅伝も各クラブの寄せ集めで、けがや病気でチーム編成ができなかった。



地元の大会で、地元の中学生参加は、吾中ソフトの1チームだけ。吾川・仁淀川駅伝(1月18日・西浦)

走りはスポーツの基本だ。心拍数を上げ走ることによって持久力、体力